

東日本震災1周年日本再興東北フォーラム
講演記録上映会

本年3月29日に仙台東北大学川内・萩ホールに於いてNPO健康福祉実践協会主催による「東日本大震災1周年日本再興東北フォーラム」が開催されました。これは東北大学と国際アジア共同体学会の企画による「3.11後の東アジア人間安全保障共同体をどう構築するか」をテーマとして3日間開催されたものです。この「日本再興東北フォーラム」はその幕開けとして行われました。

講演者は5名の方々に、中国及び韓国の医学者が「東洋医学と西洋医学そして日本医学との関わり」について、また東北大学の阿部名誉教授による「魯迅から21世紀アジアを考える・科学的精神の普遍性」についての講演がありました。ここで特筆すべきは、我が岩手高校の卒業生であり宮古市で後藤泌尿器科・皮膚科を開業されている後藤康文先輩による「東日本大震災における沿岸透析施設の状況と医療安全対策について」の講演、そしてやはり岩手高校の卒業生である作家の高橋克彦氏が「世界遺産・和の心」と題されて講演をされたことにあります。今回はこのお二人の講演のみを抜粋して上映させていただくこととなります。

私は今回のコンファレンスを映像記録として是非残したいと思いました。それは、同窓生であり健康福祉実践協会理事でもある花館和衛君を通して知ったことから始まります。また、後藤先輩の医院が津波による甚大な被害に見舞われながらも翌日には人工透析は勿論、患者の治療や収容などに多大な尽力をされている姿を多くの報道から知ったからでもありました。そこには他の沿岸地域の病院が全く機能していなかった時、何故後藤医院だけが治療を可能にしたのか、その詳細を知りたいという思いもありました。

此処数年の間に見舞われた地震による水害や異常気象による水害は膨大な数にのぼります。これは我が国だけではなく海外のあらゆる国で発生しているのが実状です。また、そこで失われた多くの命も記録的な数字となって表れております。

私はいま、今回のコンファレンスでの講演をベースとして改めて後藤先輩を取材し、水害地域の医療安全対策のあり方を掘り起こすドキュメンタリー映画の製作を模索しています。これを完成させて公開することにより、あらゆる水害地域に於ける医療施設へのサデーションとして必ずや有効であると信じ、また病院建築のための法規や規制もこの発信を基に動かす助けになるのではと思っています。この岩手から、日本のみならず世界の水害地域に向けて発信する意義についてもこのドキュメンタリー映画は有益であると考えます。

この映画は、スポンサーの出資による映画作りではなく、あくまでもボランティア活動によるドキュメンタリー映画製作となります。今回の映像記録も友人知人の無償による協力を得てやっと完成にこぎつけました。今回用意されたカレンダー販売によるご寄付もその貴重な資金源となります。本日お越しの皆様にも是非ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

映画録音技師
岩手高校新14回卒業生 瀬川徹夫